

小樽市雪対策基本計画（素案）

◆ 概要版 ◆

1 計画策定の主旨

本市では、令和元年度に第7次小樽市総合計画を策定しており、「生活基盤が充実した安全で暮らしやすいまち」をテーマのひとつとして、「除排雪」を施策に位置付けています。

これまで、「除排雪」に関しては、毎年、除雪懇談会等を開催し、地域の皆さんからの声を聴きながら、計画的に取り組んできたところですが、図1に示すとおり、近年の人口減少、高齢化の進行などの社会環境の変化に加え、除排雪作業を担う建設業の人材不足など、市の財政状況を勘案すると、このままでは、将来的に除雪体制の維持が困難となる可能性があります。

そこで、今後も継続して、冬の市民生活や経済活動を支えるために、将来を見据えた雪対策の指針となる基本計画を策定することといたしました。

2 計画の位置付け

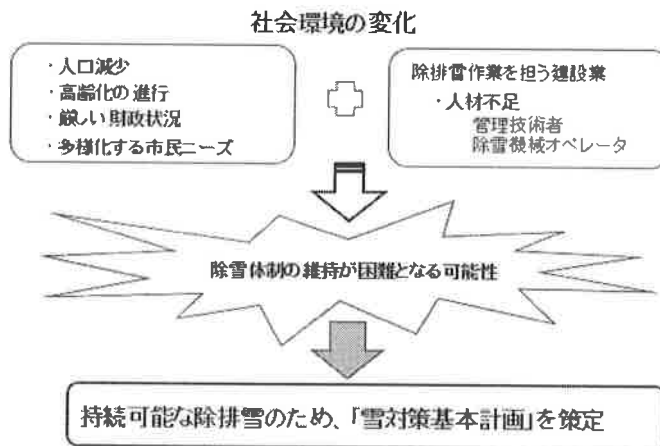
雪対策基本計画は、図2に示すとおり、第7次小樽市総合計画を上位計画として、中・長期計画に位置付けます。

計画期間は、令和2年度から令和10年度までとします。

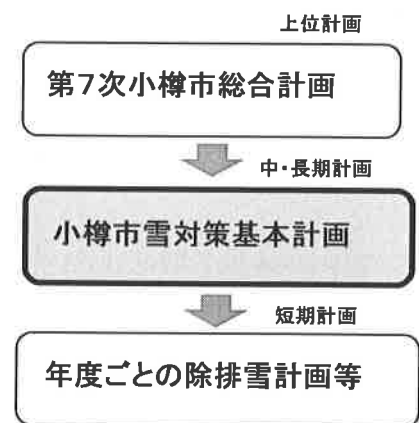
3 目標と重点施策

雪対策基本計画は、図3に示すとおり、第7次小樽市総合計画で掲げた目標に向けて、重点的な施策として、3点の柱立て（Ⅰ～Ⅲ）を行い、具体的な取組については、克雪、親雪、利雪を意識して位置付けます。

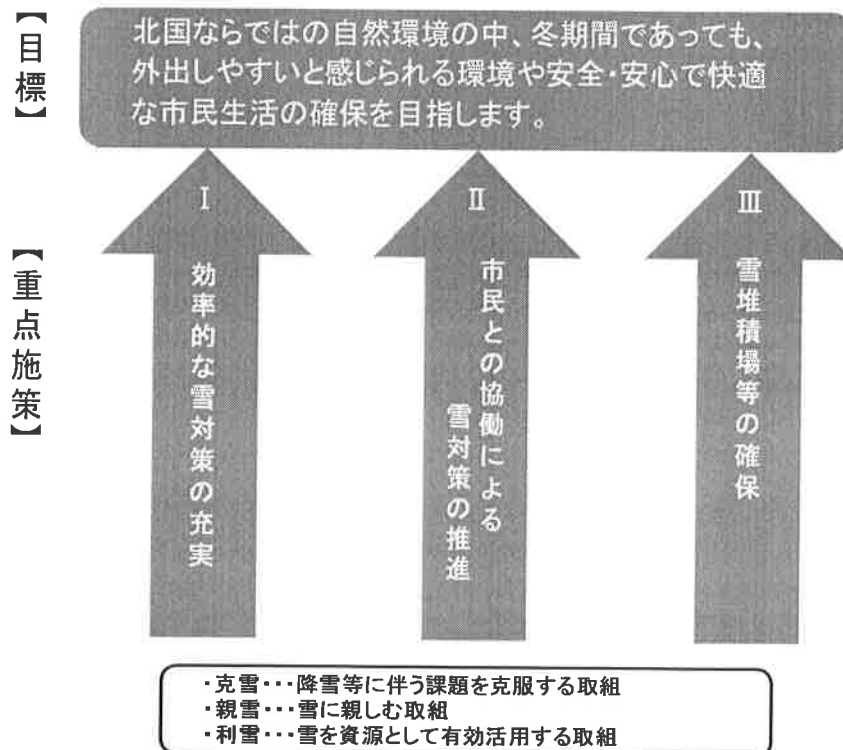
●図1- 計画策定の主旨



●図2- 計画の位置付け



●図3- 目標と重点施策



基本計画の進行管理表

重点 施策	取組の方向性	取組	具体的取組	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	指 標			備 考						
														内容	目標値等	現状値等 (H30)							
I 効率的な 雪対策の 充実	1 冬の安全で安心な 交通の確保	① 地域総合除雪による 安全な交通の確保	(i) 地域総合除雪体制の継続、維持	継続					見直し反映→						除排雪等に対する 「市民の声」件数	2,100件	2,697件	H21～H30年までの 「市民の声」件数平均値(2,697件)の2割減					
			(ii) 予防保全的な除排雪作業の実施	継続					見直し反映→														
		② 交通事業者等との連携強化	(i) バス道路等の幹線道路の安全な通行の確保	継続						見直し反映→										道路情報を提供する 市職員等の人数	21人以上	-	各除雪ステーション地区に3名程度以上
			(ii) 通学路の安全の確保	継続						見直し反映→													
			(iii) 市職員による道路状況のモニタリング情報の活用		施行		実施→				見直し反映→												
			(iv) 国道、道道の道路管理者との除雪体制連絡会議の充実	継続							見直し反映→												
	(v) 市民の皆さんとの情報共有		調査・研究→(R5年度を目的)						見直し反映→					-	-	-	※R5年度を目的に検討						
	2 持続可能な 雪対策の推進	③ 除雪ステーションにおける 管理運営の効率化	(i) ICT(情報通信技術)の導入		調査・研究→(R5年度を目的)					見直し反映→						取組の事例数	7事例	-	除雪ステーションの地区数以上				
			(ii) 除雪業務における技術の継承		調査・研究→(R5年度を目的)					見直し反映→													
			(iii) 除雪業務の担い手の確保		調査・研究→(R5年度を目的)					見直し反映→					除雪ステーションに配置する 管理技術者の人数					現状値以上	21人	除雪ステーション配置技術者3人×除雪ステーション数以上	
			(iv) 除雪事業者の確保		調査・研究→(R5年度を目的)					見直し反映→					除雪登録業者数					現状値以上	41社	H30年度の除雪登録業者数以上	
			(v) 除雪ステーション間の連携・協力		調査・研究→(R5年度を目的)					見直し反映→					取組の事例数					7事例以上	-	除雪ステーションの地区数以上	
		④ 除雪機械の 計画的な維持・更新	(i) 除雪機械の更新	継続							見直し反映→					稼働年数15年以上の 除雪機械の更新台数	19台	19台	標準耐用年数 15年				
			(ii) 除雪機械の維持	継続							見直し反映→									市所有の除雪機械台数	28台	28台	
			(iii) 除雪機械の確保		実施→(R3年度から予定)						見直し反映→									新たに市が確保する 機械台数	3台	-	砂散布車 3台
⑤ ロードヒーティング設備の 計画的な維持・更新		(i) ロードヒーティング長寿命化計画の策定		計画策定→(R3年度予定)						見直し反映→					-	-	-	※別途 長寿命化計画の策定時に設定					
		(ii) ロードヒーティング経費の縮減	継続							見直し反映→					ロードヒーティングの 部分停止面積	21,000m2	13,817m2	全設備面積(70,492m2)の3割の部分停止面積					
	(iii) 地域熱(下水熱等)の活用		調査・研究(R5年度を目的)						見直し反映→					-	-	-	※R5年度を目的に検討						
II 市民との 協働による 雪対策の 推進	3 地域で支え合う 雪対策の推進	⑥ 生活道路の除排雪支援	(i) 貸出ダンプ制度の在り方の見直し	継続					見直し反映→					実施団体数	270団体	226団体	H30年度実施団体数(226団体)の2割増						
			(ii) 小型除雪機の購入等支援		調査・研究→(R5年度を目的)					見直し反映→					-	-	-	※制度を導入時に指標設定					
			(iii) 雪置場の確保		調査・研究→(R5年度を目的)						見直し反映→					-	-	-	※R5年度を目的に検討				
	⑦ 砂まきボランティアの推進	(i) 砂まきボランティアのPR活動	継続							見直し反映→					砂まきボランティアの 登録数	180人以上	153人	平成30年度登録数(153件)の2割増					
		(ii) 散布用砂袋を配達する作業の効率化	継続							見直し反映→					町会等団体数	20団体以上	-	連合町会数(20団体)程度					
		(iii) 雪置場の確保		調査・研究→(R5年度を目的)						見直し反映→					-	-	-	※R5年度を目的に検討					
	⑧ 福祉除雪等の推進	(i) 福祉除雪サービス事業の充実とPR活動	継続							見直し反映→					除雪ボランティアの 登録数	160人以上	133人	平成30年度の除雪ボランティア登録数(133人)の 2割増 (※団体登録者を含む)					
		(ii) 町内会等との連携、協力	継続							見直し反映→					-	-	-	冬のイベント主催者との 情報共有等の事例数	1事例以上	-	冬のイベント主催者との情報共有		
	⑨ 雪に親しむ 冬のイベントへの協力	(i) 情報共有と連携、協力	継続							見直し反映→					-	-	-	冬のイベント主催者との 情報共有等の事例数	1事例以上	-	冬のイベント主催者との情報共有		
		4 地域の実情に応じた 雪対策の推進	⑩ 地域の実情に応じた 除排雪作業の工夫	(i) 地域の実情に応じた連携と協力		調査・研究→(R5年度を目的)					見直し反映→					町会等団体数	20団体以上	-	連合町会数(20団体)程度				
(ii) 歩行者等の安全で安心な通行の確保				継続							見直し反映→					観光に配慮する 路線延長	5.4km	2.7km	H30年度値の2倍程度				
⑪ 観光に配慮した 除排雪の推進	(i) 歩行者等の安全で安心な通行の確保	継続							見直し反映→					-	-	-	※R5年度を目的に検討						
III 雪堆積場 等の確保	5 大雪に備えた 雪堆積場等の確保	⑫ 恒久的な雪堆積場等の確保	(i) 新たな雪堆積場等の確保に向けた情報収集、調査、研究	継続/	情報収集、調査、研究→(R5年度を目的)				見直し反映→					新たな雪堆積場等の 確保数	1か所以上	-	-						
			(ii) 融雪施設、流雪溝の調査、研究		情報収集、調査、研究→(R5年度を目的)					見直し反映→					-	-	-	※R5年度を目的に検討					
	6 効率的な 雪対策への貢献	⑬ 雪押場の確保	(i) 置き雪の量の軽減	継続						見直し反映→					雪押場の箇所数	530か所以上	439か所	平成30年度の雪押場数(439か所)の2割増					
			(ii) 地域住民の皆さんとの連携、協力	継続						見直し反映→													
		⑭ 排雪量を減量する工夫	(i) 雪押場からの排雪量の減量	継続						見直し反映→													
(ii) 雪を活用する工夫		情報収集、調査、研究→(R5年度を目的)						見直し反映→															